

平成29年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 専任講師

氏名： 工藤 由布子

研究課題		19世紀の英国の小説家、エミリ・ブロンテの作品(詩と小説)の研究
報告の概要	研究目的及び研究概要	平成29年度個人研究費は、以下に述べるような研究計画を実行するために使用された。本年度の研究計画は、エミリ・ブロンテの作品『嵐が丘』の特徴の1つである「両極的な描写」の意味を解き明かそうというものであった。「歓喜と苦悩」、「天国と地獄」、「天使と悪魔」、「飛翔と沈潜」などと共に描かれる、そのともすると狂氣的とも言える感情の振幅は、私たちが時に人間的な感覚として接して生きていくものである。そこに『嵐が丘』と比較されることの多いバイロンの『マンフレッド』を取り上げ、エミリ・ブロンテの独自性を考察した。
	研究成果	「個人研究費」を用いた今年度の研究成果と、次年度に対する反省点を以下、簡潔に述べることにする。研究成果としては、ブロンテ協会の会報に「両極性と自我」を投稿した。この投稿は、2014年10月に行われた日本大学英文学会大会の発表原稿を、600文字で取りまとめたものである。『嵐が丘』には、「天国と地獄が交わる場所」にある嵐が丘屋敷と、「神の贈り物」であると同時に「悪魔の子」と言われる主人公ヒースクリフが居る。その舞台と主人公の存在は、両極的な要素を取り込むエネルギーに満ちており、その中心には強烈な「自我」を認めることができた。 反省点として、今年度は3年前の発表を凝縮して取りまとめるという作業に留まったことである。次年度はこのテーマを更に広げて他の作品との比較を含め、研究を進めていきたいと考えている。
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	なし
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	なし
	・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等	会報投稿: Brontë Newsletter of Japan (日本ブロンテ協会発行)、第95号、2017年11月1日、4頁「両極性と自我」。